

本日のテーマ「タイトルに惹かれた本」

実施日：2018年3月25日

1 「僕は上手にしゃべれない」

椎野直弥／著 2017年 ポプラ社 【YNシイ】

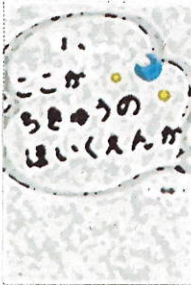
上手にしゃべれないなと思っている人は79いかもしれませんか？
主人公の男の子は吃音のため、もと切実に悩んでいました。
言いたい言葉はみっかけているのにそれが声にならない苦しさ...
しゃべるということも改めて考えてしまいました。



2 「ほお...、ここがちきゅうのほいくえんか。」

てい先生／著 2014年 ベストセラーズ 【376.1】

このタイトルは、保育園の男の子がっふりやいた ことばです。
大人が想像できないような言動をする子どもたちの様子は
本当に可愛い!! 保育園で働く独身男性保育士さんか書いた
この本には、そんな園児たちの日常が つまんでいて笑えます。

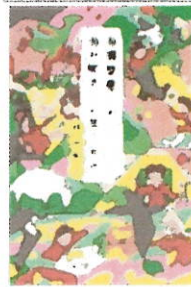


3 「鳥類学者だからって、鳥が好きだと思ふなよ。」

川上和人／著 2017年 新潮社 【488.0】

“じゃあ、なんで鳥の研究なんかしてるのよ!?”とつっこまがには
おもしろいタイトルです。

学校の授業やたいつな講演会を本論よりも、そこから脱線した
余談のほうが面白かったことはありませんか？この本もそんな
かんじです。鳥に興味があっても楽しく読めますよ。



4 「もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら」

神田桂一・菊池良／著 2017年 宝島社 【913カ】

著名な作家や、新聞や広告記事でおありがちな
文体をまねて、カップ焼きそばの作り方を書いた本
です。お気に入りのカップ焼きそばを用意してから
読んでほしいことをおすすめします。



5 「宝くじで1億円当たった人の末路」

鈴木信行／著 2017年 日経BP社 【159】

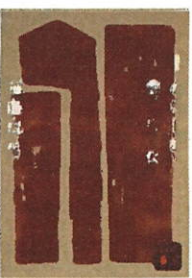
末路と書いてあるので、悲惨な運命をたどるのでは……と
思いながら、読んでみたら、否定や肯定している意見もあり(やはり
正しいかどうかは別として)納得できる結論が多かったです。
読後は「もう大丈夫だね!」と思わせる本でした。



6 「わたしが・棄てた・女」

遠藤周作／著 2012年 講談社 【SN工】

何と女性をカカにしたタイトルなんだ!と年に取りました。
1997年に「愛する」というタイトルで2回目の映画化(熊井啓
監督)。テーマは重く、ミツという主人公の女小学生の名前は
頭から離れませんでした。その後、数回読み返しています。



7 「ななな、ななななな？」

工事郎／著 2017年 熊本日日新聞社 【818.9】

“な”が8つ並んだタイトルは、熊本弁です。マズ、どんな意味
なのでしょう？答えは、“単音熊本弁を極める”のところにあります。
読んでいると思わが笑ってしまうので、電車の中ではキケンです。
まあ、一緒にグーグーな熊本弁を楽しんでみましょう!!



8 「レースペーパーの折り紙雑貨」

小林一夫／著 2007年 マーブルトロン 【754.9】

“レースペーパー”って、ケーキの下に敷いたり、フロッキングに
ちよっと使ったり...ぐらいいかに活用していませんでした。
折り紙として、雑貨を作り発想はたまたまなので、ステキな
お菓子入れやポチ袋ができるのにびっくり。個人的に「ハト」か
お薦めです。ケーキととも
7オクを置いておきたい。

